

お薬のしおり

吸入薬の使い方 No.134 (H25.4)

東京医科大学病院 薬剤部

みなさんは吸入薬を使用したことはありますか？主に、喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器の疾患の治療や発作の予防として、吸入薬を使用します。吸入の最大の利点は、薬を吸い込むことで気管支に直接薬を作用させることができることです。そのため、投与する薬の量が飲み薬や注射薬などに比べて少なくてすみます。また、他の剤形に比べ、副作用の頻度も少ないと言われています。

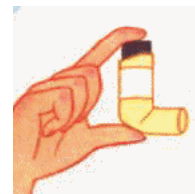
吸入の一連の操作は、①吸入の器具を準備する、②息を吐く、③吸入する、④息こらえ、⑤うがいするの5段階で、この一連の操作をしっかりと行うことで、吸入薬の効果をすることができます。しかし、吸入療法は薬を吸入するための器具を使用するため、その器具の使い方や吸入の手技を取得する必要があります。では、吸入の器具にはどのようなものがあるのでしょうか？

吸入の器具には、ネブライザーを用いた吸入と定量吸入器（MDI）があります。また、MDIには加圧噴霧式定量吸入器（p-MDI）とドライパウダー式吸入器（DPI）の2種類があります。今回は、それぞれのタイプの吸入薬を取り上げ、吸入方法の注意点をご紹介します。

◆p-MDI（エアゾール型）

エアゾール型の吸入薬は、エアゾール缶を押すと1回分の薬液がエアゾールとなって瞬時に噴出する仕組みになっています。このため、薬剤の噴霧と吸入を同じタイミングで行う必要があります。吸入のときには3秒を目安に吸入を持続する必要があります。「ゆっくり深く吸う」と説明書に記載があるものもあります。このタイプは、小型で携帯しやすく、発作時などの緊急時でも使いやすいことが利点とされています。主薬と噴霧ガスが分離型の吸入薬（アドエアエアゾールなど）は使用前に振る必要があります。薬剤によっては振る必要のないものもありますが、使用前に容器を振ることで統一して考えましょう。

薬剤の噴霧と吸入を同じタイミングでできない場合、吸入補助



鼻（スプレー）を使用することで、自分のタイミングで吸入することができますように、口腔内の副作用を軽減することもできます。また、残量が分からなくなるのを防ぐためにカウンターがない器具は、初回時に終了予定日を記載したり、製薬会社から提供される残量計を使ったりすることもできます。

・当院採用薬（キュバールエアゾール、フルタイドエアー、オルベスコインヘラー、サルタノールインヘラー、アドエアエアゾール、テルシガンエロゾル、スピリーバレスピマットなど）

◆DPI（ドライパウダー型）

ドライパウダー型の吸入薬は、専用の器具にセットされた粉末状の薬を自分で吸入する仕組みとなっています。自分で息を吸うことによって器具の中で乱気流を発生させ吸入するため、エアゾール型のようにガスの噴霧と吸入のタイミングを合わせる必要はなく、p-MDI に比べると簡単に吸入することができます。しかし、小さなお子さんや呼吸機能が低下している場合は使用が難しく、口の中に薬が残りやすいという欠点があります。このタイプの吸入薬を吸入する場合は、息を吐いてから吸入器をくわえ、速く深く息を吸い込みます。

・当院採用薬（セレベント、フルタイド、アドエア（ディスクス）、パルミコート、シムビコート、オーキシス（タービューヘイラー）、アズマネックスツイストヘラー、メプチックリックヘラー、オンブレスブリーズヘラーなど）



◆吸入ステロイド薬とうがい

吸入ステロイド薬（フルタイドやパルミコートなど）の副作用として、口腔カンジダや嗄声（声がれ）が挙げられます。吸入した薬のほとんど（約80%）は口の中に残るため、それを取り除き、副作用を防ぐためにうがいが必要です。うがいは、吸入してからすぐに水でします。外出先などのうがいのできない場所で吸入するときには、飲み物などで口をゆすいで飲み込むなどでも構いません。

吸入器によって使用方法が異なる場合があるため、使用時には説明書を参考にしてください。吸入薬や吸入方法のことでご不明な点がある場合には、医師や薬剤師にご相談ください。